

今年度の活動計画について

1. 今年度の活動方針について（昨年度までのおさらい）

6.3 海部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

【海部会3ヶ年の活動成果】

①ごみ・流木の問題

- ごみ・流木調査を実施した。（H25,H26）
- ごみ・流木調査票を作成した。（H25）
- 山・川部会メンバーが参画した。（H26）
- 子どもと親の反応を直接確認した。（H26）
- 海底ゴミの実態を把握した。（H27）
- 矢作川流域圏懇談会活動として、ごみマップのユーザー登録を行う予定である。（H27）



ごみの実態調査の様子(H25)



西の浜と佐久島における漂着ゴミの調査(H26)



②豊かな海の生物調査

- 干潟の生き物調査を実施した。（H25,H26）
- 三河湾の水質、底質を把握した。（H25）
- 干潟の生き物調査の調査方法を確立した。（H25）
- 三河湾の干潟・浅場造成に関する行政計画や事業の内容を把握した。（H26）
- 鳥類観察を通じて、干潟後背地の土地利用の問題を共有した。（H26）
- 海底の生き物等から三河湾の環境を確認した。（H26）
- 造成干潟における専門的な調査は、事務所主導で実施することとする。（H27）
- 矢作川流域圏懇談会の活動としては、4月以降に現地視察を行う。（H27）



三河湾貧酸素水塊調査(H25)



ごみの実態調査の様子(H26)

34

6.3 海部会の活動進捗報告（3ヶ年の活動成果と課題）

【海部会3ヶ年の活動成果】

③海と人の絆再生

- 海部会関連機関主催のイベントに参加した。市民参加者が多く、関心の高さを把握することができた。（H26,H27）
- アンケート調査を通じて、子どもや保護者の海への意識を把握した。（H26）
- 山部会との合同会議の場に漁業関係者が出席し林業、漁業を取り巻く現状について意見交換を行った。（H27）

④干潟・ヨシ原再生

- 干潟の生き物調査を得た。（H25）
- 干潟の生き物調査の調査方法を確立した。（H25）
- ダムของ砂の実態調査を実施した。（H25）
- 矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験施工に向け、関係機関等と方向性を共有した。（H26）
- 山部会メンバーと合同で造成後の現状を視察した。（H27）
- 造成干潟の形状変化を把握する手法としてリング法を採用し、継続的にモニタリングすることとした。（H27）



干潟調査(H25)



干潟観察会後のアンケート実施状況(H26)



矢作ダムの見学(H25)



造成干潟の検討(H26)



造成後の観察会(H27)

8. 今後の運営方針について

【背景】

(1) 課題解決に向けた山・川・海部会の活動が活発化

- 各部会とも課題解決に向けた具体的な活動が動きだし、各部会でその成果が出始めている。

(2) 流域連携を話し合う場を新たに立上げ（H26～）

- 各部流域連携に関する取組みについて、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマに絞った。
- テーマごとに主務担当者を選定し、検討方針、進め方について、市民企画会議、市民会議、全体会議を通じて方向性を確認した。

(3) 河川整備計画のフォローアップ（H26～）

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取組みを全体会議で行くこととした。
- 全体会議で河川整備計画をフォローアップする前に、勉強会を開催するといった工夫を行った。

40

8. 今後の運営方針について

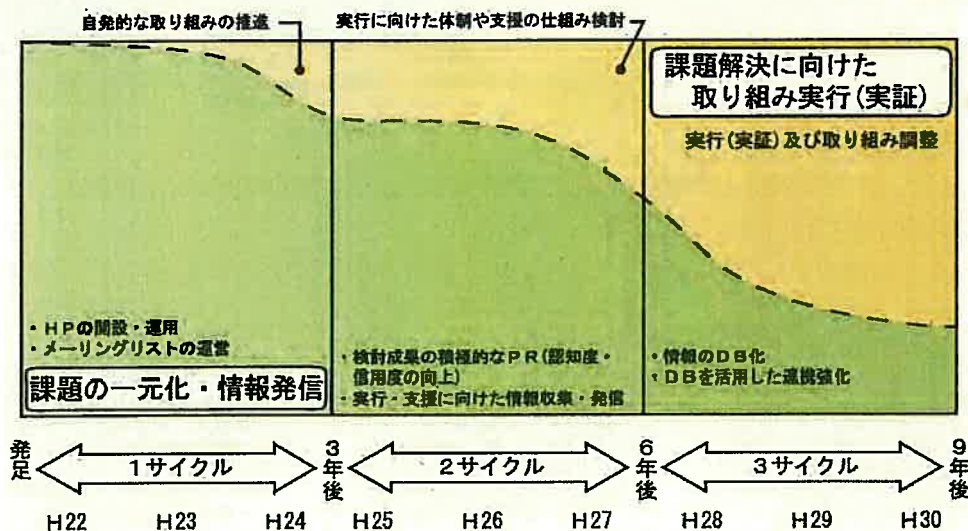
【懇談会の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 来年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取組み実行（実証）」ハシフト



41

8. 今後の運営方針について

【懇談会の目標①】

(1) 各部会の活動成果の見える化

- 平成28年度からは、課題解決に向けた実行(実証)を行っていく段階に移行する
- これまでの各部会の活動成果を見える化することで、目標を明らかにしていく
→産官民学が果たすべき役割も見える→一層の活動進捗・合意形成につながる

部会	成果の見える化に向けた取組み内容(案)
山	①H25～27の山村再生担い手づくり事例集のMAP化、ホームページへの掲載 ②代表的な森づくりガイドラインの情報のパンフレット化 ③木づかいガイドラインの作成・公表
川	①川のあるべき姿の共有(まずは(仮)保全エリアマップの作成) ②活動団体へのヒアリング結果のデータベース化(山①との連携) ③活動団体のMAPの作成/専門家リストの充実と更新
海	①ごみ・流木調査の一斉実施とデータベース化、MAP化 ②生き物モニタリング調査のデータベース化、MAP化

42

8. 今後の運営方針について

【懇談会の目標②】

(2) 山・川・海メンバーの相互理解の促進

- 山村再生担い手づくり事例集(山)と活動団体ヒアリング(川)は部会連携で行う
- 各WG活動の他部会への参加を積極的に呼びかけることを実施

山部会資料

部会間で異なる調査項目を統一化し、情報共有をしやすいとする。

川部会資料

- 山：山村再生担い手づくり事例集
- 山：木づかいライブ・スギダラキャラバン
- 川：活動団体ヒアリング
- 海：ごみ流木調査
- 海：漁業者との交流会
- 海：干潟(試験造成)モニタリング

(3) 流域連携テーマ検討の具体化

- 市民会議などにおける流域連携テーマの話し合いの中で、各部会に望むことを話し合い、WGにフィードバックする

9.3 海部会の活動方針

部会の今後の3ヶ年の目標（案）

- 山部会、川部会との合同WGの場を年1回以上は設置するとともに、会員同士の交流を深め、部会間の各会員が協働して具体的な活動を実践する。
- 矢作川をフィールドとして環境活動を実践している団体、個人の方には本懇談会活動への参加を依頼し、同志の輪を広げる。
- 矢作川流域の山、川、海で活動する人、団体が気軽に集まることができ、みんなで情報を共有し、外部に発信することができる活動拠点の場をつくる。

テーマ別の活動目標（案）

ごみ・流木問題

- 山部会、川部会および矢作川流域で活動する関係美化団体等と協働で、流域内一斉調査を実施する。
- ゴミマップHPを活用して、流域圏全体のごみマップを作成する。

豊かな海の生物調査

- 造成干潟での生物モニタリング調査を懇談会メンバーが主体となって継続的に実施する
- モニタリング結果をもとに、造成干潟の整備効果について整理し、外部に情報発信する。

50

9.3 海部会の活動方針

海と人との絆再生

- 矢作川流域圏内（山、川、海）の小学生を対象に、環境教育を目的とした干潟観察会を開催する（人工干潟を対象）。
- 愛知県主催『海の大感謝祭』の場を借りて、懇談会主体の流域圏連携に関するイベントを山部会、川部会と協働で実施する。

干潟・ヨシ再生

- ダム上流の砂をダム下流へ運ぶ「砂の駅」構想について、山部会、川部会との合同プロジェクトと位置づけ、PRイベントを開催する。
- 河川内堆積土砂を活用した人工干潟の造成の実現に向けて、関係機関に働きかける。
- 効率的かつ計画的な干潟再生を目指すため、国（水産庁）および愛知県が策定する「干潟・藻場ビジョン」との連携を図る。

7. 流域連携テーマに関する成果

【流域連携テーマに関する成果①】

平成26年度の活動では、勉強会において「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つの課題を抽出され、主務担当者を決定した。その後、部会の枠を越えた河川整備計画の内容や現地視察等の勉強会を通して、基礎的な知識を共有するとともに、山・川・海の相互理解を図られてきた。

平成27年度は、5月に実施された会議を受け、WG等で流域連携テーマに関する活動を行った。

① ごみ・流木問題

○トンボロ干潟でのごみの漂着状況確認

○西尾市吉良町三河湾沖で実施された「海の生き物調査」（矢作川をきれいにする会主催）への参加による海底ごみの現状把握

○OHP上で情報管理が可能ながみマップを用いたごみの実態調査記録の実施合意



トンボロ干潟でのごみの漂着状況確認



底引き網による海底ごみの現状確認



ごみマップ
(国土交通省とプロジェクト保津川が開発)

7. 流域連携テーマに関する成果

【流域連携テーマに関する成果②】

② 土砂問題

○小渋ダム土砂バイパストネル事業の視察

○総合土砂管理検討委員会検討状況に関する情報共有

○矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、実施主体、運搬方法、取組み方法等の検討



土砂バイパストネル（呑口）
工事状況見学



総合土砂管理検討委員会における
検討状況報告

③ 木づかい

○木づかい推進における、検討・成功事例（カーボンオフセットの利用計画やプレイスメイキングの効果）の周知と意見交換

○流域ものさしの製作における、材料の確保、山村再生担い手づくり事例集で培われた人脈の活用についての意見交換



木づかい推進の様子（安城市）



プレイスメイキングによる集客効果（豊田市）



矢作川の流域材で製作した試作品（流域ものさし）

7. 流域連携テーマに関する成果

【市民会議の成果】

①市民会議で得られた意見

- 今後は山川海の連携で一緒にやっていくことに重点を置くというのはいかが
- 国土交通省としてもっと宣伝、PRしていく必要があるのではないかと
- 矢作川流域圏の活動は、全国に胸を張って説明できる非常に誇らしい先進事例である
- 山・川・海連携のために一つのキーワードが必要だ
- 9年目になった時に総括シンポジウムを実施し、ここで何を発表するかを考えて残りの3年間を進めていくべきだ
- 矢作川流域圏懇談会は、川部会が鍵である
- 山・川・海連携に関わるイベントを年1回行うべきである
- 木づかい、土砂問題の双方に関するPR方法として、木の船に土砂を乗せて流したり、スギで舟を作って川や海にまつわる生き物や土砂を量るといった様々なPRイベントが考えられる
- 市民が主体であるという位置づけを基軸に、市民が頑張れる仕組み、制度を確立できるようにすべきだ
- 市民会議の出席者が以前と比べ大きく減少している。特に、以前よく発言していた人がみられなくなった

②全体会議の進め方について

- 全体会議では、何に重点を置いた議題とするかが重要だ
- 成果としては各部会を出しつつ、どのように3部会で一緒にやるかという内容を全体会議で決めていくべきだ
- これからの3年間に何をやっていくべきかについて多くの時間をかけて議論すべきだ

39

10. 流域連携テーマに関する活動方針

①ごみ・流木

- 海部会WGを中心に実施する
ごみ・流木に関する検討のうち、国土交通省が開発した「ごみマップ」をベースにした成果を公開

②土砂問題

- 海部会WGおよび山部会WGが連携した「砂の駅」構想について、イベントを実施するとともに、流域圏としてのしゅみを形成

③木づかい

- 山部会WGで検討されている「流域ものさし」の製作と、このプロジェクトを基軸とした、次世代を担う子供たちも巻き込んだ考え方の展開
- 流域に住む小学生を対象に流域を自転車で下るイベントの具体化
- 移動時の体験種目として山村再生担い手づくり事例集の実用化

2. 今年度の活動スケジュールについて

- ・今年度の活動内容を検討しましょう（山・川部会との連携活動含む）。
- ・各テーマにおける具体的な成果イメージを共有しましょう（ex.活動を通じた海部会メンバーの増加）。

■活動方針

活動テーマ1：ごみ・流木問題

- ①川と連携したごみ・流木調査の実施
- ②海底ごみ調査の実施
- ③ごみマップによる情報共有

今年度の成果イメージは？

活動テーマ2：豊かな海の生物調査

- ①造成干潟でのモニタリング調査
- ②情報発信

今年度の成果イメージは？

活動テーマ3：人と海との絆再生

- ①子どもの干潟体験の実施
- ②流域圏連携イベントの実施

今年度の成果イメージは？

活動テーマ4：干潟・ヨシ原再生

- ① 干潟造成に向けた検討
 - ・砂の駅PRイベント
 - ・人工干潟の実現に向けて

今年度の成果イメージは？

■活動スケジュール

時期	内容	日程（予定）
6月		6月 日（ ）
7月		7月 日（ ）
8月		8月 日（ ）
9月		9月 日（ ）
10月		10月 日（ ）
11月		11月 日（ ）
12月		12月 日（ ）